

第2章 銃後

札幌空襲③

札幌にも空襲が

柴 基実さんのお話から

私が小学校六年生当時住んでいた現在の東札幌は、三十軒ばかりの農家が散在する田舎でした。春は、蛙の大合唱、ヒバリのさえずり、夏にはキリギリスやセミやカツコウの鳴き声、秋にはリンゴや梨の果樹、水稻の収穫、冬は馬そりの跡がなければ長靴まで埋まった荒道をこぎました。また、望月寒川などの川には、ドジョウやウグイ、フナなどの小魚がたくさん泳いでいました。

私は、昭和十八年（一九四三年）三月、白石尋常高等国民学校を卒業しました。現在で言うと中学二年生です。同じ学年には予科練の少年航空兵に志願して、七つボタンの制服を着た友だちもいて、とても格好よく、みんなの憧れの的でした。

○予科練 海軍飛行予科
練習生の略。航空機要員
養成のため、主に少年か
ら志願採用。

四月、私は、札幌商業第二本科に入学しました。

私の家族は、祖父母、父母、叔母が二人、兄弟姉妹が八人、全部で十四人の大家族でした。当時は、産めよ、殖やせよの時代で、子どもを十人産むと国から表彰されたのです。

一番上の兄は召集された後、旭川、満州、そして満州から沖縄へ行きました。二番目の兄も召集されて、旭川から北支、中華民国の戦地へ行きました。三番目の私が農業を手伝うことになりました。

○満州 中国東北部。

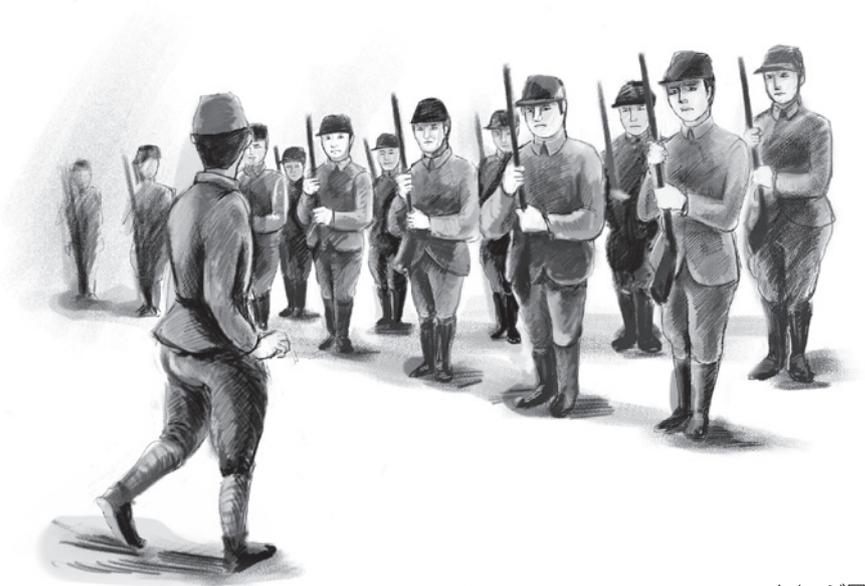
札幌商業第二本科一年生、現在で言う中学三年生からは、軍事教練というのがあって、国のために命を捧げる教育を受けていたのです。国のためなら死んでも構わないという教育が行われていました。また、中学校へ行かない同年代の人は青年学校で軍事教練を習っていました。

○兵器補給廠 軍隊に兵器や物資を補給するための施設

男子は兵隊検査があつて、合格して、召集令状が来ると兵役についたのです。

昭和十九年（一九四四年）十月には、白石村に陸軍官舎や兵器補給廠が建ちました。白石小学校の近くの兵器補給廠に勤務をする陸軍中佐や将校に十三戸、下士官や軍属に三十二戸、白中公園に二棟の兵舎を建て、兵士が五十人ほど住んでいました。また、現在の白石区役所から南郷丘公園の周辺の三十八ヘクタールの面積に十二棟の陸軍兵器補給廠の建物が分散して建てられました。そして、JR白石駅から鉄道が敷かれ、軍事物資の集積場所となったわけです。大砲や機関銃、そして故障した兵器を修理する整備工場がありました。

私が札幌商業第二本科三年生、現在で言う高校二年生のときです。昭和二十年（一九四五年）四月一日、アメリカ軍は十四万人の軍隊と千五百隻の艦船を集結させ、沖繩に上陸しました。一般住民まで巻き込んだ激しい戦いを三カ月間にわたって繰り広げました。この沖繩戦におきまして、私の一番上の兄が戦死をいたしました。今でも召集令状で出征して行った風景がまぶたに映ります。隣近所の大勢の人が日の丸の小旗を振って、軍歌を歌いながら白石駅まで行進し、出征兵士を代表して兄があいさつをするりりしい姿は忘れることはできません。



軍事教練の様子

イメージ図

○艦砲射撃 軍艦に備えてある大砲などから弾丸を発射し、ねらい撃つこと。

○グラマン艦載機 アメリカのグラマン社が作った主力艦上戦闘機。艦載機とは空母などから発着する航空機のこと。

○防空壕 航空機による空からの攻撃から身を守るためにつくった穴や地下室。

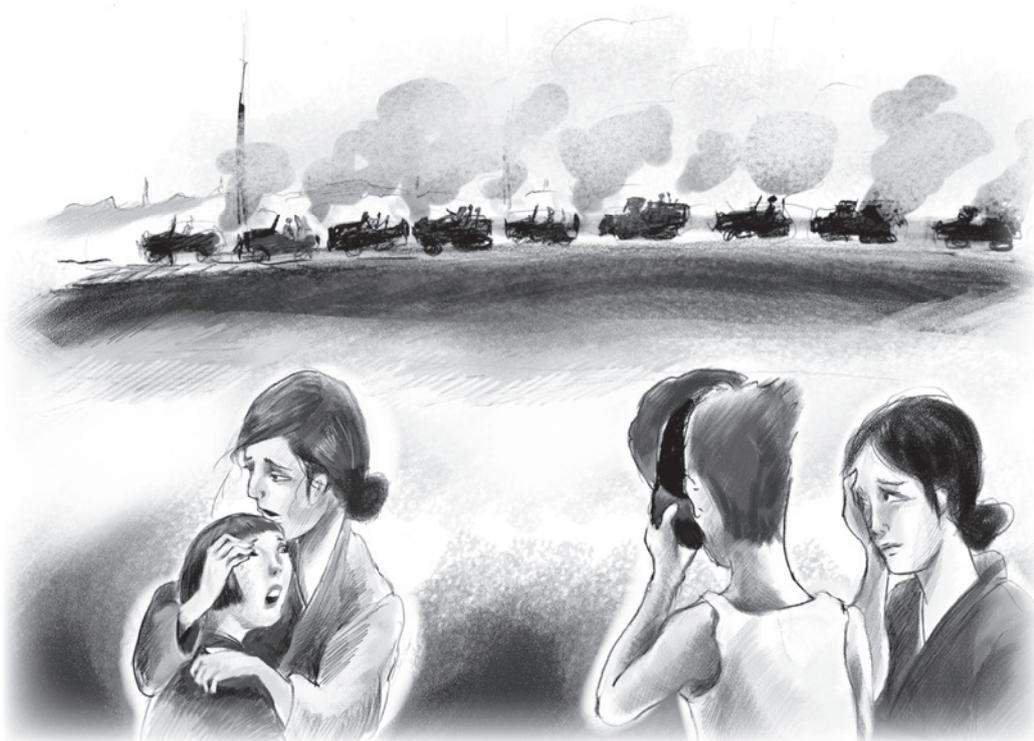
○玉音放送 天皇自身の肉声によるラジオ放送。特に終戦を伝えるラジオ放送を指すことが多い。

昭和二十年七月十四日と十五日の両日、北海道も初空襲に見舞われました。函館港の連絡船も逃げ惑いましたけれども、ことごとく沈められました。室蘭の軍需工場も爆撃で破壊され、釧路は艦砲射撃に遭って大きな被害に遭いました。

札幌では、七月十五日、空襲警報とともに、グラマン艦載機が飛来しました。私は、家の向かいの水田のところから轟音とともに低空で飛来するグラマン艦載機三機の編隊を初めて見ました。JR白石駅に停車中の機関車に機銃掃射をしていきました。ダダダッともものすごいすさまじい音は今でも記憶に残っています。早速、防空壕の中に飛び込みました。日本の飛行機は全く姿を見せることはありませんでした。

昭和二十年八月十五日、ラジオを通じて天皇陛下から玉音放送があり、無条件降伏をしたことを国民に知らせました。本当に張り詰めた精神がぶつと切れまして、空の虚脱感となりました。

同年十月五日、北海道へ最高司令官として、ライダー少将や第七十七師団長のブ



国道36号線を走るアメリカ軍のトラックやジープ

イメージ図

○接収 強制的に所有物を収受すること。

ルース少将が八千人の部下を連れ、小樽港に上陸しました。札幌や旭川に行ったのですが、札幌には中島公園にあった北部軍司令部跡の宿舎、それから市内の宿泊施設などを接収しました。夜、ゴーゴーゴーツともものすごい音を立ててトラックやジープが国道三十六号線の豊平地区を通過していったのが耳に残ります。とうとう日本もアメリカ軍の統治下に置かれたという実感がひしひしと迫ってきました。

白石村には陸軍兵器補給廠の跡地に宿舎があり、二、三十人の兵士が駐屯しました。大人は用心深く見守っていましたが、子どもたちはアメリカ兵からチョコレートやチューインガムをもらうようになって、大人のほうも次第に平静になりました。

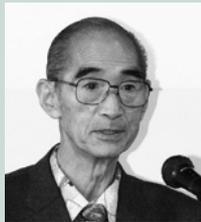
過去と現在の日本を比べてみました。戦争に明け暮れた日本は、老いも若きも戦場へ行き、反対すれば非国民とレッテルを張られ、約十年間にわたっての食料不足でした。一年のうちに四十五日間も、米も麦もいろいろなものの配給のない日がありました。食べ物がないから農家へ行って物々交換をするという時代でした。衣料品も新品を着れるのは長男や長女だけ、あとは全員つぎはぎだらけのおさがりばかりを着る時代でした。今は、終戦から数えて六十五年を経過した日本です。戦争のない平和な暮らし、食料も医療も豊富で、住宅も近代的な建物がたくさん建っています。また、言論の自由、そして自由な社会、そして人情味あふれる穏やかな日本、世界一の長寿国、そしてまた世界でトップクラスの工業国です。こんなすばらしい日本がこれからも永遠に平和でありますように祈ります。

DATA

平成22年度白石区平和事業

聴き取り

- ・平成22年10月21日
- ・川北小学校



柴 基実(しば・もとみ)さん

- ・昭和3年(1928年)生まれ
- ・札幌市白石区在住